

オーストラリア学会 第37回地域研究会(関西例会)のお知らせ

*会員以外の方も参加できます。入場無料。

日 時:2025 年 11 月 1 日(土)14:00~17:00

会 場:キャンパスプラザ京都6階第7講習室

(京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路 939)

主なアクセス:JR 京都駅(烏丸口)から西へ徒歩 5 分

参加申し込み先:氏名・所属を明記のうえ、10 月 26 日(日)までに下記 google フォームからお申し込みください(第 38 回関西例会とアドレスが異なります)。研究会終了後、JR 京都駅周辺で懇親会を予定しています。会場予約の都合上、懇親会参加の有無も必ずご記入ください。

<https://forms.gle/AEF6Qd4xd7CJwN927>

QR コード→



共通テーマ:「オーストラリアの政党政治と教育政策」

〔発表 1〕

「2025 年オーストラリア連邦総選挙の意義と今後の展望」 杉田 弘也(神奈川大学)

【要旨】5 月 3 日に行われた連邦総選挙は、史上初めて野党党首を落選に追い込むなど、大接戦との予想を覆し労働党の記録的な圧勝となった。アルバニー政権への支持は、先住民に関する憲法改正投票が否決された 2023 年 10 月以降から下降し、2024 年末時点では政権交代の可能性すら取りざたされていた。報告者が 2-3 月に滞在したときの感触は、労働党にとって状況は好転しているが単独過半数の獲得は困難であり少数政権が濃厚というものであった。本報告では、予想外の結果となった背景とオーストラリア政治の今後の展望を考えていきたい。

〔発表 2〕

「公正の観点から考えるオーストラリア教育政策の連続性と断絶性」 伊井 義弘(大阪公立大学)

【要旨】「オーストラリアの教育システムは卓越性と公正性を促進する」という一文が、アリススプリングス(Mparntwe)教育宣言(2019)の目標として掲げられている。本報告では、その目標の鍵概念の一つである「公正(equity)」に焦点を当てて、1970 年代以降、連邦政府が策定・実施した様々な教育政策の連続性と断絶性を、①教育政策に及ぼす政治的な影響、②公正の実現が目指される対象(へき地や先住民など)を軸に考察する。

〔主催:オーストラリア学会 関西例会担当:友永雄吾(龍谷大学)、前川真裕子(京都産業大学)〕